

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 141人

② 数学 141人

5 留意事項

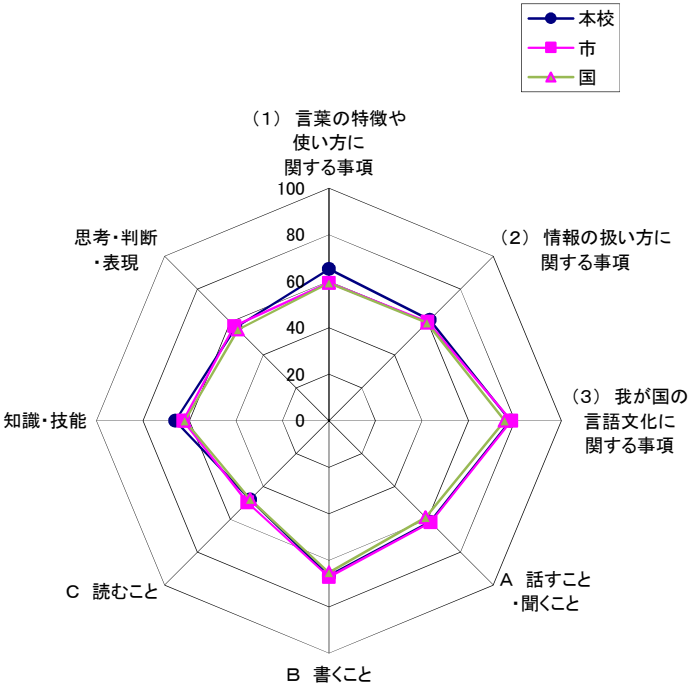
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.2	59.3	59.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	61.3	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.0	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	61.5	61.8	58.8
	B 書くこと	66.7	67.2	65.3
	C 読むこと	48.0	49.7	47.9
観点	知識・技能	66.1	62.7	62.0
	思考・判断・表現	56.7	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

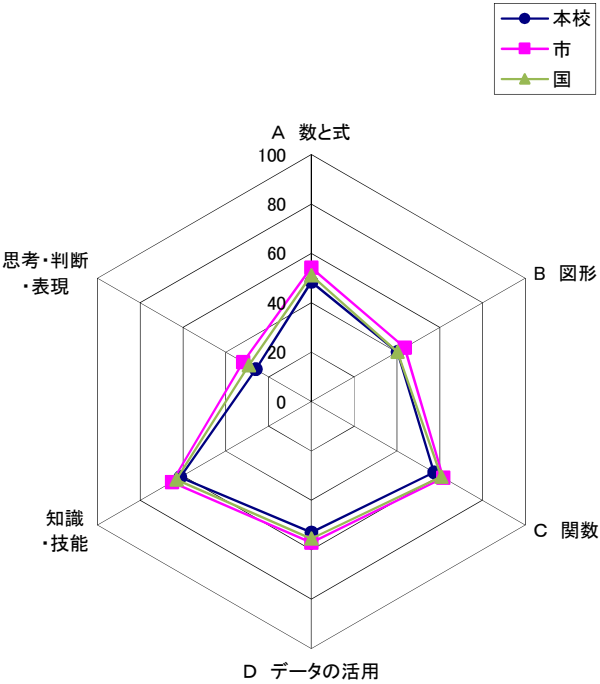
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、65.2%で市の平均よりも5.9ポイント上回っている。 ○「漢字を書く」問題の正答率は73.0%であり、県や国の平均を上回っている。 ○「短歌の表現技法」についての問題の正答率は61.7%であり、県や国の平均を上回っており、無回答率は0%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字テストの実施や、言葉への意識を高める授業実践を今後も継続していく。また、ただ覚えるだけでなく、学習した漢字を文章の中で正しく使えるよう指導する。 ・詩、短歌、俳句などを味わう機会を増やし、自らも創作の際に表現技法を活用することで理解を深めることができた。実際に活用することで、その効果を捉えられるように指導する。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、61.3%で市の平均よりも1.3ポイント上回っている。 ○「具体と抽象など情報と情報との関係」についての問題の正答率は78.7%であり、県や国の平均を上回っている。 ●「意見と根拠など情報と情報との関係」についての問題の正答率は44.0%であり、県の平均を下回っている。	・ICTを活用しながら、適切な情報の収集・整理・活用のスキルを身に付けさせていくことに努める。 ・自分の意見を支える根拠の重要性を理解させるとともに、根拠の説得力を高めるために情報収集が必要であることを認識できる言語活動を授業に取り入れていく。スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、レポートなど様々な活動の中で情報を取り扱うスキルを高めていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、78.0%で市の平均よりも0.4ポイント下回っている。 ○「行書の書き方」の問題の正答率は78%であり、県の平均を2.6ポイント、国の平均を2.4ポイント上回っている。	・行書の特徴や、行書の読みやすい書き方、行書に調和した仮名の書き方など、書写の授業を通して、生徒が我が国の言語文化について理解を深められるよう指導する。 ・地域の人材を活用し、ボランティアティーチャーとして書写の授業に協力してもらい、個別指導を充実させていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、61.5%で市の平均よりも0.3ポイント下回っている。 ○「他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる」問題の正答率は54.6%で県や国の平均を上回っている。 ●「自分の考えが分かりやすく伝わるように話す」問題の正答率は65.2%で県や国の平均を下回っている。	・分かりやすく伝える工夫など、話し方のスキル向上に有効的な言語活動を取り入れていく。質問をしたり、されたりする中で自分の考えを深めていけるよう、対話的な活動を充実させていく。
B 書くこと	平均正答率は、66.7%で市の平均よりも0.5ポイント下回っている。 ○「工夫した表現の効果を説明する」問題の正答率は52.5%であり、県と国の平均を上回っている。 ●「集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする」問題については、県や国の平均を下回っている。	・記述式の問題の正答率が県や国の平均を上回っており、自分の考えを書く力が身に付いてきている。 ・情報や材料の整理が課題になっているため、レポート作成などの活動を通して克服していく必要がある。実際に自分の気になったことを調べたりまとめたりする中で、情報を効果的に活用できるよう指導していく。
C 読むこと	平均正答率は、48.0%で市の平均よりも1.7ポイント下回っている。 ○「着目する内容を決めて要約する」問題の正答率は44.0%であり、県や国の平均を上回っている。 ●「文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉える」問題の正答率は61.7%で、県や国の平均を下回った。	・説明的文章や文学的文章など、多くの文章に触れるよう促し、さまざまな見方・考え方を身につけられるよう指導する。特に説明的文章では、論の進め方を捉えるとともに、説得力を高めるための工夫や、分かりやすい例示の仕方など、細部にも注意しながら読んでいけるよう指導する。 ・観点を明確にして複数の文章を比較しながら読んだり、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付けたりすることで、物事に対する新たな視点をもてるようにする。

宇都宮市立一条中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	48.5	54.2	51.1
	B 図形	40.2	43.6	40.3
	C 関数	57.3	61.7	60.7
	D データの活用	53.0	57.1	55.5
観点	知識・技能	61.3	65.2	63.1
	思考・判断・表現	26.1	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率は、48.5%で市の平均よりも5.7ポイント下回っている。 ○「正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める」では全国平均正答率を2%程度上回っている。 ●倍数になることを説明する問題では、平均正答率が35.9%と低く、県の平均よりも7%程度低い。	・今後は授業の中で復習を兼ねた問題への取り組みや小テストを実施し、基礎的な計算技能の定着を図る。 また、復習ややり直しの習慣がない生徒が多いため、確実な学習習慣も身につける指導を行っていく。 ・今後も継続して授業の中で友達に説明する場面を設けるなどし、計算が成り立つ理由なども説明でき、数と式と同様に、説明することが苦手と感じている生徒が多い。基本的な証明の問題を繰り返し解くことで考え、表し方を理解させ、まずは自分の言葉で説明しようとする意欲を育てていきたい。
B 図形	平均正答率は、40.2%で市の平均よりも3.4ポイント下回っている。 ○「正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ」では全国平均正答率を5%程度高く、よく理解できている。 ●三角形の合同を基にして証明する問題では正答率は22.0%で、県の平均を4%程度下回っている。	・グラフ、式、票の関連を意識させながら特徴をとらえさせる。 ・各学年で新しく学習する内容のときに、既習事項も合わせた問題演習などを行い、学習内容を関連付けていきたい。
C 関数	平均正答率は、57.3%で市の平均よりも4.4ポイント下回っている。 ○「結衣さんがかいたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く」では、県の平均を1.0ポイント上回っている。 ●ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ問題では、県の平均を6ポイント程度下回っている。	・基本的な用語や求め方の確認を丁寧に行い、話し合い活動等を通して、資料の見方や活用の仕方を身につけさせていく。 ・確率の求め方など基本的な問題を中心に練習をし、計算の技能を高めさせていく。
D データの活用	平均正答率は、53.0%で市の平均よりも4.1ポイント下回っている。 ○「車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ」では全国平均正答率を3%程度上回っている。 ●最頻値を求める問題では平均正答率は66.0%だが、全国の平均を8ポイント程度下回っている。	

宇都宮市立一条中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と回答した生徒の割合は93.1%であり全国平均を8.2ポイント上回っている。

○「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると思う」と回答した生徒の割合は95.2%で昨年度よりも13.6ポイント伸びている。全国平均を9.1ポイント上回っている。今後も、伝え合う力の育成に向けての学び合いの場の設定と、多様な思考や表現を生み出す学習活動の工夫を図りたい。

●○「1, 2年生のときに受けた授業で、ICT機器をどの程度使用しましたか。」の質問に対して「ほぼ毎日・週3回以上」の割合が全国平均を22.7ポイント下回っている。しかし、「1, 2年生のときの学習の中でICT機器を活用すること」について「楽しみながら学習を進めることができる」と回答した生徒は92.5%で全国平均を10.2ポイント上回り、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と回答した生徒は89%で全国平均を11.3%上回っている。今後も、ICT機器を効果的に活用し、学ぶ意欲の向上を図るとともに、情報活用能力の育成を図りたい。

○●「普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強するか」の質問に対して「2時間以上」の割合が県・全国とも7ポイント以上、上回っている。また、「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強するか」の質問に対して「2時間以上」の割合が50.7%と全国平均を14.5ポイント上回る。しかし、数学の調査の結果では、説明や記述問題への正答率が低く、市や全国平均を下回っている。学習方法の指導や「自主学習ノート」を生かした指導など、学びに向かう力を育み、学力の向上を図りたい。

●「新聞を読んでいるか」の質問に対して、読んでいる割合が低く、「ほとんど、または全く読まない」と回答した生徒が81.5%である。本校ではNIEに取り組んでおり、新聞クラブを立ち上げたり、新聞コンクールに全校生徒で参加したりするなどしている。各学級に毎日配布される新聞の活用を図り、広い視野と思考力・判断力・表現力を育成する。

●総合的な学習の時間の発表会や学級活動・道徳での話し合い活動など、課題を立てて情報を整理して発表したり、意見のよさを生かして解決方法を決めたりして積極的に取り組んでいると感じている生徒が多い。しかし、「課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいる」「自分の考えを深めたり広げたりすることができる」の肯定割合は県や全国とほぼ同じである。今後、学校行事や発表会の機会も増えるので、機会を捉えて考えさせる場を意識的に設けたり、各教科の授業においてもねらいを明確にした話し合いを設定したりして指導していきたい。

宇都宮市立一条中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
生徒が主体的に取り組むための学習評価の工夫・改善	・見通しを立てて主体的に学習に取り組むことができるよう、授業のねらいや評価の観点、学習のポイントを示している。 ・個に応じた指導を実践し、学習状況と学習評価から主体的に取り組むための工夫・改善を図っている。	・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる」設問では、48.6%で全国の平均と比べて21.1%上回っている。
主体的、対話的で深い学びのための授業改善	・習熟度学習やチームティーチングの充実による学習意欲の向上を図る。 ・クロムブック等のICT機器の積極的な活用。	・「1, 2年生のときに受けた授業で、ICT機器をどの程度使用しましたか」の質問に対して「ほぼ毎日・週3回以上」の割合が全国平均を22.7ポイント下回っているが、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と回答した生徒は89%で全国平均を11.3%上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
本校の生徒は自己肯定感が高く、意欲的に学習に取り組む生徒が多い。また日頃よりお互いの意見を出し合い、多様な意見に触れる機会を多く行い、自らの意見を発表することを得意としていることが質問紙からわかった。しかし、教科に関する調査において、説明や記述問題への正答率が低く、市や全国平均を下回るなど、意識が結果に結びついていないという実態も見られる。	・思考力・判断力・表現力を育てる場の設定 ・考えや根拠を明確にして、言葉で伝える学習への主体的な取組	・自分の考えをまとめる機会や学習した事柄を活用する機会を増やす。 ・学習方法の指導や「自主学習ノート」を生かした指導。